

ポストISSにおける我が国の利用サービスの調達の考え方について（サマリ）

資料64-1-3
科学技術・学術審議会
研究計画・評価分科会
宇宙開発利用部会
ISS・国際宇宙探査小委員会
(第64回)

○ポストISS（2030年以降）ので目指す姿

- 我が国の地球低軌道利用が、**空白期間なく、その規模を含めて継続・発展**している。
- **日本企業がポストISSの事業に主体的に参画**して地球低軌道サービスや有人宇宙飛行サービスを提供し、**事業がビジネスとして成立**している。
- 日本企業による利用サービスに、**「きぼう」で培った開発・運用の技術や日本独自の利用環境が適切に継承され発展**している。

○ポストISSにおける利用スキームの概要

- JAXAは、**米国商業宇宙ステーション事業者と調整・交渉する日本の企業**（日本利用サービス提供企業）を経由し、利用サービス調達を行う。
- **アカデミアや国の機関等による科学研究に係る科学利用、照合利用、技術実証利用**についても、基本的に、**日本利用サービス提供企業を通じて調整することを想定**する。

○ポストISSにおける利用内容の考え方・概要

- 宇宙環境利用については、ポストISSでも日本として必要な利用環境を確保し、更なる成果創出を可能とする。有望な利用領域であるきぼう利用プラットフォーム（PF）についてもポストISSに継承。
- **科学利用の一部**は、引き続き**アカデミア等がJAXA取りまとめで利用し、技術実証、商業利用、および科学利用の一部**は、**利用者が日本利用サービス提供企業と直接契約し利用**することを想定する。

（利用概要）

- JAXAおよびJAXA以外の利用者が日本利用サービス提供企業と直接契約して利用：探査に必要な技術実証、人材育成等
- アカデミア等がJAXA取りまとめで利用：健康長寿研究PF、細胞医療研究支援PF、新薬設計支援PF、先進的燃焼研究支援PF、革新的材料研究支援PF、新規PF等
- 利用者が日本利用サービス提供事業者と直接契約して利用：超小型衛星放出PF、船外ポートPF、新薬設計支援PF、非定型利用等

○ポストISSにおける利用要求

日本がポストISSにおいて**必要な利用リソースを確保できるよう**、今後、ポストISSにおいて日本利用サービス提供企業となることを目指す企業等を通して、**米国商業宇宙ステーション事業者との調整を進める**。

（要求概要）

- アップマス300kg程度、ダウンマス150kg程度
- 300時間程度のクルータイム
- 3ラック相当程度のエリア
- 5 kW程度の電力
- 500Mbps下り、100Mbps上り程度の通信
- iSEEP2～3ポート相当程度の船外ポート

(留意) 望ましい我が国の利用サービスの提供形態について

- ポストISSにおいて、我が国に必要な利用リソース確保の確度向上が重要。
 - * ポストISSにおけるJAXAの利用サービスの調達タイミングは、NASAの商業宇宙ステーション要件の固定後（CLD Phase2選定後）の見込み。
- 我が国全体としての利用リソース確保とともに、我が国としての裁量や柔軟性を保持するためには、一定の自律性を確保できる我が国の設備・インフラを米国商業宇宙ステーションに設置・接続することが有効かつ効果的アプローチと考えられる。
 - * これまでのISSで培ってきた我が国の有人宇宙技術の維持・発展の可能性も要考慮。
- ただし、ポストISSにおける利用リソース確保は、事業者の創意工夫が最大限尊重されるべきもの。